愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	クリティカル・ロジカルシンキング		
担当者(Instructors)	久野 正人	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

「どう考えるか」「どう考えを言葉や文字にするか」「他の考えをどう理解するか」を学びます。学生の皆さんは社会に出れば、これまで以上に自分で考えて、他者の考えを咀嚼して、意思決定を積み重ねていくことになるからです。　修了後には、最低でも自分の考えが妥当かを事前事後に考える資質が身につき、しっかり習得された方は、より良い考え方や、その表現力が身につきます。　授業は可能な限り双方向の、そして履修生間のコミュニケーションが取れる形で行います。オンラインで（視聴のために確保された教室から）実施しますが、できるだけ対面での出席を推奨します。　第1回目、第13回目、第14回目、第15回目は対面のみで実施します。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	プレゼンテーションスライドと指定した教材（ケース・ストーリー）を使います。理解度を確認するテストを2回行います。課題では表計算ソフトを使用することがあります。その場合はノートPCの授業への持参を推奨します。確率・統計の基礎知識を必要としますが、大学での関係科目履修は必須ではありません。 履修生は数人のグループに分かれ、グループでの発表を1度行います。内容は、ケース・ストーリーを基にした、模擬プレゼンテーションまたはディスカッションドラマです。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション　※対面実施	授業の概要や履修する必要性、授業の進め方の紹介。	□
第2回	クリティカル・シンキング　1	クリティカル・シンキングの１回目として、「速い思考」と「遅い思考」、それらの特徴や相互作用によって間違った考えが発生する仕組みを学ぶ。	□
第3回	クリティカル・シンキング　2 思い込みについて（１）	誰にでもある「思考のクセ」である思い込み（バイアス）について学ぶ。ここでは代表的なヒューリスティックによるバイアスを学ぶ。	□
第4回	クリティカル・シンキング　3 思い込みについて（２）	前回で学んだものの他にもよく知られているバイアスを、２回にわたって学ぶ。	□
第5回	クリティカル・シンキング　4 思い込みについて（３）	前回の続きを学ぶ。ケース・ストーリーからも学ぶ。	□
第6回	クリティカル・シンキングに大事なこと （ここまでのまとめ）	ここまでの学習内容を総括する。理解度を確認するテストを実施する。	□
第7回	ロジカル・シンキング　1 基本となる概念（１）	ロジカル・シンキングに大事な「考える枠組み」を、２回にわたって学ぶ。	□
第8回	ロジカル・シンキング　2 基本となる概念（２）	前回の続きを学ぶ。	□
第9回	ロジカル・シンキング　3 確率・期待値	客観的な思考に欠かせないデータに基づく思考の一つとして、確率・期待値の考え方を学び直す。	□
第10回	ロジカル・シンキング　4 ディシジョン・ツリー	意思決定のプロセスを細分化しツリー状にして、それぞれの場合の確率と価値とから期待値を求める方法（ディシジョン・ツリーによる意思決定）を学ぶ。	□
第11回	総合判断について	金銭的価値は重要ではあるがそれだけではない、などの場合によく使われる「総合判断」だが、それは果たしてまっとうな意思決定だろうか。総合判断をいかに客観的に、説得力をもって行うかを学ぶ。ケース・ストーリーからも学ぶ。レポートの課題を説明する。	□
第12回	ここまでのまとめ	ここまでの学習内容を総括する。理解度を確認するテストを実施する。	□
第13回	グループ発表準備　1　※対面実施	グループごとに、模擬プレゼンテーション、またはディスカッションドラマの準備をする。	□

第14回	グループ発表準備　２　※対面実施	グループごとに、模擬プレゼンテーション、またはディスカッションドラマの準備をする。	□
第15回	グループ発表、まとめ　※対面実施	各グループの発表を行う。レポートを紹介する。これまでの学習内容を総括する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、教材の該当範囲を読み込み、事前課題がある場合は答えられるように自ら考えをまとめておく（２時間）。事後学修として、その日に学んだことを再現できるように振り返る（２時間）。後半ではこの時間の中で、グループ発表の準備やレポート作成に充当してもよい。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

履修生は毎回、GoogleまたはMicrosoft Teamsのフォーム（予め指定のもの）により、理解度や質問を記載したものを送信する。共有した方が良い内容のものは次回の授業の冒頭にコメントまたは回答する。 授業内試験は次回授業時に解説とともに解答例を提示する。レポートは添削・採点のうえ返却する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019全学共通DP2	何かを決めようとするときに、基礎知識や専門知識、および自らの経験を基に、できるだけ客観的な判断をするために考え、判断し、それを的確な文字や言葉にして、自分の立場や役割を踏まえて説明することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			10%	90%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

その他の内訳は以下の通り：　・毎回の授業後に提出するフォームの内容…15%　・授業での発言や質問を貢献度として……15%　・期末までに提出するレポート……30%、　・模擬プレゼンテーション、またはディスカッションドラマ…30%

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業の第1回目でケース・ストーリーを配付する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	相良奈美香著　行動経済学が最強の学問である　SBクリエイティブ	978-4815619503
2	ダニエル・カーネマン著　ファスト&スロー　あなたの意思はどのように決まるか？（上巻）　早川ノンフィクション文庫	978-4150504106
3	ダニエル・カーネマン著　ファスト&スロー　あなたの意思はどのように決まるか？（下巻）　早川ノンフィクション文庫	978-4150504113
4	ベン・エーコン著　科学は「ツキ」を証明できるか　「ホットハンド」をめぐる大論争　白揚社	978-4826902380
5	グロービス経営大学院著　グロービスMBAクリティカル・シンキング[改訂3版]ダイヤモンド社	978-4478020586